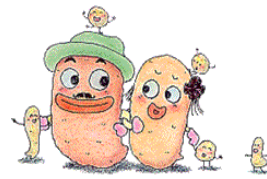


# 湯戸飛夜いけいけだよ



Jinen Joe family

発行 西徳山まちづくりの会

## 記事:

- ・新年明けましておめでとう  
ございます
- ・連載小説  
『男でござる 新  
説天野屋利兵衛』  
最終回
- ・周南こどもゆめまつり  
「イカ焼きで出店  
しました」
- ・戸田駅前ビアガーデン  
「『秋覚祭』を開店  
しました」
- ・西徳山いけいけ大  
収穫祭 in ソレーネ  
周南  
「イカ焼きで出店  
しました」

## 会員募集中

あなたも「西徳山  
まちづくりの会」  
と一緒に活動しま  
せんか。会では、  
常時、会員を募集  
しています。

E-mail :

nishitokuyamamatizuk  
urinokai@gmail.com

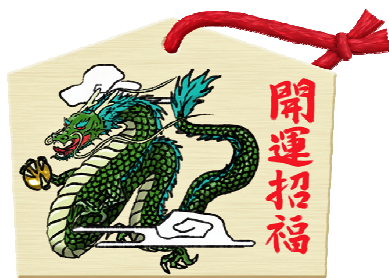
## 新年明けまして

## おめでとうございます

令和6年の新春を迎え、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。  
私たち西徳山まちづくりの会では、まちづくりの基本は人と人のつながりと考えており、人が集い、語り合い、笑い合い、お互いの良さを認め合い、力を合わせて住み良い地域を作っていくことがまちづくりだと考えています。

令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置付けられ、感染対策は個人や事業者の判断で行われることになりました。こうしたことを受けて、これまで中止や縮小開催されていたイベントがコロナ禍以前の賑やかさを取り戻しつつあります。私たちも他団体主催のイベントに積極的に参加し、屋台村に出店しています。また、まちづくりの会が主催する人と人が集う場の提供としての「戸田駅前ビアガーデン」を夏と秋に開催しました。環境美化としての「戸田駅前 花壇での花育て」は継続して取り組んでおり、「戸田駅を花の駅にしよう」を合言葉に毎月第2、第4土曜日の16時から戸田駅前花壇のお世話、広場周辺の草取りなどの作業を続けております。お手伝いしていただける方、大歓迎です。私たちの花育ての様子を周南市本庁市民ギャラリーに展示された「花咲け 笑顔咲け 花づくり写真展」で紹介させていただきました。

## 迎春



自分たちでできることは自分たちで行い、行政にしかできないことは積極的に働きかけていく。『自分たちの住むまちは自分たちでつくっていく』ものです。まちづくりに興味のある方の参加をお待ちしています。

本年もどうぞよろしくお願いたします。

西徳山まちづくりの会

連載小説

『男でござる 新説天野屋利兵衛』

最終回 文城山耕作

義商（再び回想）貳

さて、話を元に戻しましょう。

大石様が暮らしておられる山科には、時々こちらから店の者を使いに出して、いくばくかの金子をご用立てしたりしていました。

何しろ赤穂藩の塩の運搬にわが天野屋をお使いになられたのをきっかけに商売も順風満帆で、此方にもそのくらいご用立てするのに何の不自由もないくらいに余力はありました。

ある時、大石様から京の山科へお呼び立てがありました。私は誰にも気づかれないように参りました。すると、大石様は

「利兵衛殿、武士が使う槍のことで、戦で使う槍は屋内では邪魔で使い勝手が悪くて仕方がありません。屋内用の短い槍を二十本くらい用意できませんか。」

私はもしやと思いました。大石様のご決意が希望から確信へと変わりました。私は大石様を真顔で見つめ、ただ大きくうなずきました。誰にも知られてはなりません。黙って

山科を後にしました。この元禄の御代に槍などの物騒なものを堺で注文すれば、たちまち何事かと騒ぎになります。そこで考えたのが播州三木の刃物の事でした。幸いにも三木には信用できる刃物屋がいたので、極秘裡に短い槍を二十本拵えてもらいました。そして、それをお届けしたのでございます。総ては極秘裡で行われました。これが元禄十五年の十月の事でありました。

その後十一月に入りまして、金子の用立ての依頼が参りました。いつもの事なので今回もまたまとまった額を送りました。あとで聞いた話ですが、この金子は装束を揃えるのに使われたそうです。なんでも夜中に戦闘の仕度ではあまりにも目立ちすぎるので、火事場装束だったらしいのではないかということだったらしいのです。

そして、赤穂義士が吉良邸に討ち入り、見事吉良上野介の首級を上げ、本懐を果たしたという報せは、堺の町にもまもなく知れ渡りました。大石様、ご子息の主税様はじめ赤穂義士の敵討ちに世間は大いに興奮し、たちまち英雄になったのでございませぬ。

私も大いに感激し、大石様たちの義拳の手助けができたことへの喜びを感じたのでございます。しかし、

私のしたことは天下の法を破る大罪です。奉行所に自首しました。

奉行所では私の自首に大いに驚いたのでしよう。あれこれ尋問を受け、何日か留置させられました。悪ければ打ち首、軽くて遠島くらいは覚悟していましたが、刑罰は驚くほど軽いものでありました。内容は堺の町の所払い、つまり堺の町に住んではいけないということでした。それだけでも驚きましたが、その上但し書きが付いて、堺の自宅へ立ち寄るくらいなら、いつ帰っても構わないというものでした。ほとんど無罪と言ってもいいくらいです。これも奉行所が、赤穂義士の快拳に沸き立つ世論に配慮したものであり、もしかしたら奉行所自体が喝采をしている気配があるのでございます。

最期の回想

赤穂藩主浅野内匠頭様の殿中での刃傷沙汰に端を発した赤穂事件は、このように幕を閉じたのでございませぬ。私こと天野屋利兵衛としては、日頃からお世話になつてゐる赤穂藩の事なので、できる限りの支援を惜しみませんでした。最終的に四十七人になりましたが、義士の皆様方の生活の支援や大石内蔵助様の指示によつて、武器の用意などもお手伝いできました。

そして世論は、赤穂浪士の義挙に喝采を送り、私天野屋利兵衛にも義商として、その一連の物語の一角に添えてもらうようになりました。もったいなくも有難いこととございました。

歌舞伎では『仮名手本忠臣蔵』と題して、興行が行われたりしているとのことです。芝居の中で、奉行所において自分を強要され、拷問を受けた時、「天野屋利兵衛は男でございます」と見得を切るという風に聞いております。

私のしたことは、法の下では罪でございりますが、人間的には人々の称賛を集めるものでした。ですが、私は静かに法の裁きを受けようと自首したのでございます。

その結果は軽いもので済みました。一度は奉行所の裁きで、打ち首獄門を覚悟した身でございます。私の残りの人生はいわば天からの贈り物でございます。幸いにも廻船問屋天野屋は息子が曲がりなりに何とかが経営しているようです。私にも少しの財産があります。

残しても仕方のない物と思いましたが、京の都にでも移り住んで、困っている人たちの何らかの助けになればと思つて、慈善活動を始めようと思ひました。私は表に出な

いで、もちろん名前も出しません。志ある人を募つて、慈善団体を設立しました。困っている人たちには喜んでいただけようです。

それにしても、父母のことや、故郷四郎谷のことは忘れたことはありません。母親からは優しさを教えられ、父親からは愛ある厳格さと男らしさ、そして学問を授けられました。十五の時に河村瑞賢のような商人になることを夢見て四郎谷を後にしました。あれから四十年が経とうとしております。

ある時、ふと故郷四郎谷へ帰つてみようと思ひ立ちました。ちょうど天野屋の船が三田尻へ行く便があるので同乗したのです。天野屋の船の船頭たちは、私に粗相があつてはいけなれないと思ひ大事に扱つてくれましたが、構わないでほしい旨を伝えました。

三田尻に降り立つて、しばらく東に向けて歩くと懐かしい山や川が見えてきました。そしてわが故郷四郎谷へと着きました。

父母の墓にお参りした後で、幼い時に遊んだ人たちが訪ねてきました。みんなよい年を取つていて、私を歓待してくれました。

暫く話した後で、三田尻からの折り返しの便で帰ることにしました。その時に四郎谷の人たちに、父母

の墓の守を頼むと言つて、いくばくかの金子を置いて行つたのです。その金子で私の石碑を作つてくれたのかどうかは定かではありません。私は商人を自指して四郎谷を出て行つたのでありますが、その石碑は四郎谷の里を見下ろすように建つているのでございます。まるで私の故郷への想いを慮つたかのように。

(完)



## 編集後記

小誌の連載小説が終わりを迎えた。

あれは三年前。コロナ禍で私たちの活動が制限される中で、小誌だけは何とか続けていきたいと思った。

さりとて活動ができないので記事として取り上げるものもなかった。

そんな時、地域の文豪である城山耕作先生に相談を持ち掛けたのがきっかけで、「新説天野屋利兵衛 男でござる」が始まった。

小誌の継続という課題に対し、内容はともかくとして、紙幅を埋めたという事実にはだけは一定の評価をしたい。

城山先生には百二十枚にも及ぶ原稿に対して感謝申し上げる。先生は、「感謝なくていいから原稿料をくれ。」と仰られているようだが、その点については固くお断りを申し上げた。

まだあとがきが残っているようだが、次の連載は何が始まるのか、期待したい。

発行責任者

会長 神本康雅

広報部長 木曾裕子

西徳山まちづくりの会

ホームページ URL:

nishitokuyama.web.fc2.com

## 周南こどもゆめまつり

### イカ焼きで出店しました

令和5年10月22日(日)10時からゆめプラザ熊毛で4年ぶりに開催された周南こどもゆめまつりに、イカ焼きで出店しました。



当日は晴天で人出も多く、大盛況でした。中学生ボランティアに屋台村の売り子をお願いしました。



## 戸田駅前ビアガーデン

しゅうかくさい

### 「秋覚祭」を開店しました

令和5年11月4日(土)正午から戸田駅前ビアガーデン「秋覚祭(しゅうかくさい)」を開店し、参加者は11人でした。

サザエ、イカ、カマス、キス、鯛、鰻など豊富な海の幸とさつまいもを炭火で焼き、新米むすび、酢の物など新鮮な秋の味覚を堪能しました。綺麗に咲いた花を見ながら、秋の味覚を楽しむ。まさに眼福、満腹です。



## 西徳山いけいけ大収穫祭inソレーネ周南

### イカ焼きで出店しました

令和5年11月19日(日)9時から、ソレーネ周南の収穫祭イベントに“イカ焼き”で出店しました。

木炭で丁寧に素焼きした後にタレ焼きを行い、200本用意して150本程度売れました。

隣に“焼き芋”で出店されていた「ソレーネ周南と歩む会」の方々と一緒に、会場に足を運ばれた方に声をかけ、大変盛り上がった雰囲気でしたので、時間を忘れて楽しめました。

今後もイベントの際に“イカ焼き”を見かけた際は、ぜひご賞味ください。

